

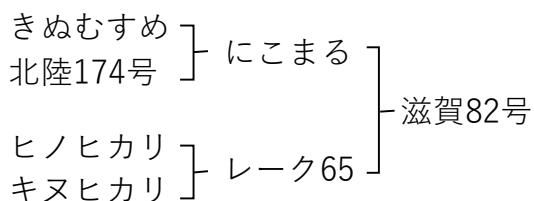
水稻新品種「滋賀 82 号」の導入について(案)

1. 導入の背景

- 夏期の高温等の影響により、水稻作付面積の約 15%を占める「キヌヒカリ」の1等米比率は 22.4%と低い(9月30日時点)。
- 生産現場からは高温耐性品種の導入を求める声が多く、JA グループからも「滋賀 82 号」の速やかな品種化と導入が求められている。
- こうした状況を踏まえ、「滋賀 82 号」を早急に品種登録し、作付拡大を図る。

【参考「滋賀 82 号」の品種特性等】

- 「滋賀 82 号」は多収で高温耐性を有するため、気候変動下でも安定した生産が可能。
- 令和7年の1等比率 92.5%(実証ほ)
- 食味は「コシヒカリ」と同等。
- いもち病に対する抵抗性を有しないため、本病の常発地では必ず防除を実施。



図「滋賀 82 号」の来歴

表 「滋賀82号」の品種特性

	滋賀82号	キヌヒカリ
高温耐性	あり	なし
熟期 (収穫時期)	中生の早 (9月上旬)	早生 (9月上旬)
いもち病	弱	中
単収(kg/10a)	629	546
食味評価※	0.01	-0.18
穂発芽性	極難	やや易

※農技C産「コシヒカリ」を基準として評価。

2. 導入の方向性

- 主に業務用米として流通する「キヌヒカリ」の代替品種として推進。
- 良食味であることから家庭用も含めた多用途での活用を想定。
- 関係団体が一体となって生産・流通拡大を進め、近江米の供給力強化を図る。

R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度
プレ栽培	一般栽培開始	作付面積の拡大	
卸業者への PR	本格販売開始	販路拡大	

※令和7年度中に品種登録出願を予定。